

# 環境活動レポート

2017年度

株式会社 北海道アルバイト情報社

1. 事業所名及び代表者氏名

会社名 株式会社 北海道アルバイト情報社

代表者名 代表取締役 村井 俊朗

2. 所在地 (認証範囲における事業所名とその住所)

本社	〒060-8647	北海道札幌市中央区南2条西6丁目13-1
北支社	〒065-8585	北海道札幌市東区北31条東1丁目3-21
南支社	〒003-0023	北海道札幌市白石区南郷通16丁目北2-1
印刷製本工場	〒063-0835	北海道札幌市西区発寒15条12丁目4-20
旭川営業所	〒070-0024	北海道旭川市東4条2丁目4-22
函館営業所	〒041-0811	北海道函館市富岡町3丁目23-5 北斗ビル
帯広営業所	〒080-0057	北海道帯広市柏林台中町2丁目2-3 シャルム壺番館
釧路営業所	〒084-0909	北海道釧路市昭和南3丁目15-5 アウアンツァーレ昭和
苫小牧営業所	〒053-0022	北海道苫小牧市表町3丁目2-13 王子不動産第Ⅱビル
恵庭営業所	〒061-1448	北海道恵庭市相生町2-1 いざりえビル
北見営業所	〒090-0024	北海道北見市北4条東1丁目11-12 双進ビル
小樽営業所	〒047-0032	北海道小樽市稲穂2丁目11-13 協和稲穂ビル
室蘭営業所	〒050-0074	北海道室蘭市中島町1丁目23-18 YSプラザビル
(株) HAJ マネジメント	〒060-0062	北海道札幌市中央区南2条西6丁目13-1
(株) スパイラル	〒060-0062	北海道札幌市中央区南2条西6丁目13-1

3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 森谷 文昭

事務局担当者 吉田 民夫 TEL 011-223-3700

4. 事業内容の概要(認証範囲における業務範囲)

(株) 北海道アルバイト情報社

- 求人情報誌ならびにWEB媒体の編集・発行、求人計画の立案及び実施
- 各種就職セミナーの企画、キャリアカウンセリング等の実施
- 当社WEB求人サイトの管理・運営
- WEB・モバイルコンテンツの商品企画・開発
- 商品企画・開発、書籍・DVDの企画・出版
- テレビ・ラジオ番組の企画・制作
- 各種出版物の印刷・製本
- 労働者派遣事業法に基づく一般労働者派遣業及び有料職業紹介事業

(株) HAJ マネジメント

- 不動産の所有及び管理

(株) スパイラル

- ホームページ、モバイルコンテンツ等の企画・製作

5. 事業の規模(主要製品の生産量・出荷額、従業員数、事業所の延べ床面積等)

(株) 北海道アルバイト情報社                      (株) HAJ マネジメント  
(株) スパイラル

活動規模	単位	2017年
売上高	百万円	5,479百万円
従業員	人	258人
床面積	m <sup>2</sup>	9,508.70m <sup>2</sup>

6. 環境活動レポートの対象期間と発行日

対象活動期間 2017年1月1日～2017年12月31日

発行日 2018年4月23日

7. 環境方針

**【環境理念】**

環境問題の深刻化は人類全体の課題であり、企業もその役割を自覚しつつ行動して行かねばなりません。株式会社北海道アルバイト情報社は、求人事業等を通して地域社会に貢献し続けるため、可能な限り環境に配慮した事業活動を行い、環境及び地域社会と共生する、持続可能な経営を目指します。

**【環境方針】**

- 1、事業活動による環境負荷の低減を図ります。
- 2、グリーン購入を推進します。
- 3、森林資源の利用にあたっては、循環型の利用に努めます。
- 4、事業活動に関わる環境関連法規則等を遵守します。

2011年1月17日

株式会社 北海道アルバイト情報社  
代表取締役 村井 俊朗

## 8. 環境目標（3年中期目標を含む）とその実績

北海道電力の二酸化炭素排出係数(0.669kg-CO<sub>2</sub>/kWh)

※ 平成27年度CO<sub>2</sub>排出実績に基づく、平成28年12月27日発表の排出原単位を使用

2017年度 二酸化炭素排出量 1,451,666.743Kg-CO<sub>2</sub>

(2016年度 二酸化炭素排出量 1,477,975.247Kg-CO<sub>2</sub>)

### ①今年度の目標とその実績（毎年前年を基準）

環境目標項目	環境目標	実績
電気使用量の削減	運用手順の徹底	1,535,198kwh(1.18%増)
灯油使用量の削減	日常管理の実施	57,055ℓ(6.37%減)
ガス使用量の削減	日常管理の実施	30,621m <sup>3</sup> (12.84%減)
ガソリン使用量の削減	運用手順の徹底	51,214ℓ(5.82%減)
水の使用量の削減	日常管理の実施	2,972m <sup>3</sup> (6.90%増)
一般廃棄物排出量の削減	運用手順の徹底	10.85t(15.36%減)
紙使用量の削減（購入量）	運用手順の徹底	コピー用紙 1,057,000枚(1.29%増)
化学物質使用量の削減	維持管理	対応済み
グリーン購入の推進	維持管理	事務用品 100%

### ②中期環境目標（毎年前年を基準）

環境目標項目	2018年度環境目標	2019年度環境目標	2020年度環境目標
電気使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
灯油使用量の削減	日常管理の実施	日常管理の実施	日常管理の実施
ガス使用量の削減	日常管理の実施	日常管理の実施	日常管理の実施
ガソリン使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
水の使用量の削減	日常管理の実施	日常管理の実施	日常管理の実施
一般廃棄物排出量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
紙使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
化学物質使用量の削減	維持管理	維持管理	維持管理
グリーン購入の推進	維持管理	維持管理	維持管理

## 9. 主要な環境活動計画（環境への取組）の内容

### （1）環境目標を達成するための行動内容

#### ○二酸化炭素排出量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
電力使用量	照明の節電	照明	トイレは使用しないときは消す
			フロアの各所・共有スペース・会議室なども使用しない時は消す
	電化製品の節電	プリンター	〈本社〉廊下については、エレベーターホールを除く給湯室側については使用しないときは消灯
			照明（蛍光管等）を外せる所を検討
	コピー機	休日前日の退出時に電源をOFF。3連休・GW・正月などの長期休暇の際にも必ずOFFにする	
			退社時には必ず電源を切る

環境目標	取組内容	実施詳細			
電力使用量	電化製品の節電	エアコン	リモコンの温度設定を、夏26℃・冬24℃に設定する 温度計を貼る 冬、エアコンは退社時にタイマー設定をする 冬、フロアの温度計が24℃を超えたら、エアコンを切る		
		エレベーター	3フロア以上の移動時に使用する		
		パソコン	1時間以上席を外す時はパソコンの電源を切る		
		トイレ便座・フタ	便座の通電温度を低くする 使用したらフタを閉める		
		トイレ暖房	最終退社時にスイッチを消す		
		ポット	最終退社時に電源を抜く		
		加湿器	最終退社時に電源を切る		
		LPガス	適切な使用	ロードヒーティング	効率の良い設定
			効率的な稼働	印刷機械	スパンを開けない効率的な稼働
都市ガス	適切な使用	旭川ロードヒーティング	効率の良い設定		
		旭川エアコン	リモコンの温度設定を、夏26℃・冬24℃に設定する 温度計を貼る 冬、エアコンは退社時にタイマー設定をする 冬、フロアの温度計が24℃を超えたら、エアコンを切る		
灯油	適切な使用	ロードヒーティング	効率の良い設定		
		工場1階暖房	1階工場部分の使用場所制限		
		釧路暖房	冬24℃設定		
ガソリン	省エネ運動	エコドライブ	ふんわりアクセル、やさしい発進 急加速・急操作の少ない運転 早めのアクセルOFF、エンジンプレーキを積極的に使おう エンジンをかけたらすぐ出発（長い時間アイドリングしない） 駐停車時のアイドリングを避ける ガソリンはできるだけ満タンにしない 不要な荷物は積まない。 信号が青に変わったら一呼吸待ってふんわりとアクセルを踏み込み発進する		

○水使用（排出）量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
排出量	節水・適切な使用	トイレ・給湯室	水はだしっぱなしにしない

○一般廃棄物・産業廃棄物排出量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
事業系一般廃棄物・産業廃棄物	一般・産業廃棄物の削減	ゴミの分別	ゴミ分別のプランに沿って実施する

○コピー用紙の使用量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
コピー用紙使用量	資源の保全	プリンタ	プリントルールを作り、わかるように広報
		コピー機	プリントルールを作り、わかるように広報 用紙設定、サイズ設定、枚数、カラー設定 最後にコピー機の設定をリセットすることを忘れずに 各階毎、営業所毎に使用枚数を掲示する 使用済の用紙の破棄・再利用ルールを再度徹底。フローチャートなどを作り 判断基準を明確にする

○化学物質使用量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
印刷用溶剤使用量	溶剤の変更	印刷機器に使用	可能な限り環境配慮型の溶剤へ変更する

○グリーン購入の推進

環境目標	取組内容	実施詳細	
環境配慮商品使用	維持推進		直接部署単位での購入の際はグリーン購入

10. その他の環境活動

(1) 北海道のグリーン電力を活用しています。

求人誌などを印刷・製本する発寒工場の使用電力として、室蘭市の祝津風力発電所で発電された電力100,000kWhを、「グリーン電力証書」で購入しています。  
この活動により、年間約66.9トンのCO2排出削減に寄与します。

※排出削減量の計算にあたっては、北海道電力排出原単位である0.669kg-CO2/kWhを使用しています。

(平成27年度CO2排出実績に基づく、平成28年12月27日発表の排出原単位を使用)

(2) 北海道の間伐材を利用する、「木づかい運動」を推進しています。

2006年より林野庁の「木づかい運動」に賛同し、道産の間伐材を積極活用する取り組みを続けています。「3.9ペーパー」という印刷用紙に道産間伐材を利用するシステムで、2017年度は146.6トンを利用しました。

そして、社内で使用済み割り箸を回収し、王子ホールディングス株式会社の割り箸リサイクル活動に提供しております。2017年度は53.0kgをリサイクルしました。割り箸一膳が約4g。割り箸三膳でA4コピー用紙1枚相当なので、 $53,000 \div 4 \div 3 = 13,300$  (膳)  $13,300 \div 3 = 4,400$  (枚) A4コピー用紙約4,400枚の原料を割り箸リサイクルで調達したことになります。

2013年5月に取得した新十津川町の社有林にて、健全な森づくりを実施する山林経営を行っています。また森林整備には社員も参加し意識向上に努めています。

(3) 北海道のオフセット・クレジットを利用しています。

2010年より北海道内の森林整備によるオフセット・クレジットを利用してオフセットしています。

2017年は10月全事業所で使用した電力による排出分CO<sub>2</sub> 80トン分を、以下の10プロジェクトのオフセットクレジットでオフセット致しました。

- ・士幌町有林間伐促進による森林づくりプロジェクト
- ・上士幌町有林間伐促進プロジェクト（次世代に引継ぐ豊かな森づくりプロジェクト）
- ・標津町防風林育成事業—サケのふるさとの森林づくりプロジェクト
- ・石狩市市有林間伐促進型プロジェクト～ニシンが群来る豊かな海を未来に繋ぐ森づくり～
- ・紋別市有林間伐促進型森づくり事業
- ・南ふらの町有林の間伐促進によるCO<sub>2</sub>吸収量促進事業
- ・北海道浦河町有林間伐促進吸収プロジェクト～優駿を育む森づくり～
- ・北海道津別町による町有林内における間伐推進を図りながらの森林CO<sub>2</sub>吸収促進事業
- ・北海道広尾町有林における森林吸収プロジェクト ～サンタの森づくりプロジェクト～
- ・中標津町地域のくらしを守る格子状防風林における間伐促進プロジェクト  
～持続可能な循環型社会、環境首都なかしべつを目指して～

※ 8. 環境目標(3年中期目標を含む)とその実績に計上しているCO<sub>2</sub>排出量は上記

(1)、(3)のCO<sub>2</sub>削減分を除く前の数値です。

(4) 生物多様性の保全への取組を始めました。

上記社有林にて生物多様性の保全を考えるべく、専門家を交えた調査を引き続き継続中です。

1 1. 環境活動の取組結果の評価結果

(1) 環境目標を達成するための行動内容の評価と次年度の取組

●電気使用量 1.18%増の要因（運用手順徹底）

2017年は、1月から営業所が2拠点増加したことが大きな要因となっている。  
2拠点分の1年間の使用量は13,230kwhとなりそれを除くとほぼ昨年並みとなる。  
（使用拠点～全拠点）

●灯油の使用量 6.37%減の要因（日常管理の実施）

暖房とロードヒーティングで使用している北支社と暖房で使用している釧路営業所は昨年並み。暖房とロードヒーティングで使用している印刷製本工場では、給油のタイミングが来期に持ち越されたため2017年の使用量が減少している。  
（使用拠点～北支社・印刷製本工場・釧路営業所）

●ガスの使用量 12.84%減の要因（日常管理の実施）

暖房やロードヒーティングで使用している拠点は4～5%増。その中でも旭川営業所に関しては設備的に可能だった為、ロードヒーティングの有効面積の圧縮を行い30%弱減少している。印刷製本工場では印刷設備にガスを使用していますが、昨年同様に求人誌の印刷部数を圧縮しており、使用量は7%弱減少している。  
（使用拠点～本社・印刷製本工場・旭川営業所・帯広営業所・釧路営業所）

●ガソリンの使用量 5.82%減の要因（運用手順徹底）

営業所が2拠点増加しているものの、各拠点とも内外勤の連携が良くなっており効率良く営業活動が行われている結果だと考えている。  
（使用拠点～全拠点）

●水の使用量 6.90%増の要因（日常管理の実施）

本社・北支社・南支社の在席社員が増加が要因と考えます。  
（使用拠点～本社・北支社・南支社・印刷製本工場・旭川営業所・帯広営業所・釧路営業所・恵庭営業所）

●一般廃棄物排出量 15.36%減の要因（日常管理の実施）

社員数が増加はしているが、昨年の実績をふまえ、ゴミ分別の取組強化を行った結果社員の意識向上に繋がり、減少する事ができた。  
（社内LANによるゴミ分別取組強化の告知）



●コピー用紙使用量（購入量）1.29%増の要因

コピー用紙の購入タイミングにも左右されてしまう部分があります。

無駄に使用している状況ではありませんが、今後感覚的にはこの辺りで増減していくものにとらえています。

●2018年も引き続き、全ての環境活動計画を継続して実施していきます。

(2)環境への取組の自己チェックの評価結果

2017年の増加したエネルギーは企業活動（人員増等）に比例して増加したものと捉えている。いつもであれば冬期間に関わるエネルギー（電気・灯油・ガス）が大きく影響しているが、今年は昨年並み及び減少傾向だった。

2018年以降も冬期間に使用するエネルギーが大きく影響するため、その中で問題と認識する事項があれば改善していきます。

1 2. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等は遵守されていた。また現在までに環境関連法規等の違反や顧客・地域からの訴訟は発生しておりません。

1 3. 代表者による全体評価と見直しの結果

環境方針は問題ないので改訂なし。

環境経営システムも問題なし。

環境目標も問題なし。

エネルギー使用量の増加に関しては、11、「(2)環境への取組の自己チェックの評価結果」でも書かれているとおり、企業活動（活動量増や人員増等）・外的要因（天候等）に対応するレベルのものであって、環境マネジメントシステムは問題なく機能しているものと判断します。

尚、一般廃棄物に関してはゴミの分別の徹底を図った結果、15%以上の減量に繋がり、今後も全てのエネルギーに対し、運用手順の徹底に取り組みます。